

10/2 (金)
読売(朝刊)

なぎ倒された建物 サモア沖地震

【ラロマヌ(サモア・ウ
ボル島)＝岡崎哲】南太平
洋のサモア諸島沖で9月29
日に発生した地震の震源に
近く、サモアで最も被害が



●インドネシア・バタン中心部で
倒壊したホテル。一部で救出作業
が行われているが、ほとんどが手
つかずだ(1日、田原徳容撮影)
●サモア・ラロマヌで、津波で倒
壊した家屋の跡に座り込む男性
(9月30日、尾崎孝撮影)

大きかったとみられるラロ
マヌに30日(日本時間10月
1日夜)入った。空爆を受
けた後のように、ほとんどの
建物は、土台を残してな
ぎ倒されていた。

首都アピアから南東約30
キロ。村は電気が消え、砂浜
には津波で流された冷蔵庫
やテレビが転がり、10キロほ
ど沖に車も見えた。「今日
搬送された遺体だけでも26
人。逃げ遅れた子供とお年
寄りが多く、2歳の子もい
た」と警察官(45)は目を潤
ませた。AP通信によると、
サモア、米領サモア、トン
ガの死者数は合計150人
に達した。

一方で、村の族長は「2
004年のスマトラ沖の地
震以降」大地震が起きたら
高台に逃げる訓練が行わ
れ、多くの命が救われた。日
本人が訓練に協力してくれ
た」と語り、現地で防災訓練
などの支援を行ってきた日
本の協力を感謝を示した。